



赤道からはなれるとなぜ寒くなるの

赤道付近は、太陽から受ける熱の量が多い

緯度は、地球上のある地点が、赤道から南北へ、どのくらいはなれているかを表しています。緯度は、赤道を0度、南極と北極を90度として、その間を、同じ間かくで区切っています。赤道付近を低緯度地方、南極や北極に近い地域を高緯度地方、その中間を中緯度地方といいます。赤道付近の低緯度地方は、太陽が、真上に近いところからあたっているので日差しが強く、一年中暑い日が続きます。太陽から受ける熱量が大きいのです。

太陽から受ける熱の量が少なくなる

北半球が冬のとき、太陽の南中高度（太陽がいちばん南にくるときの高さ）は、夏よりもずっと低くなります。さらに、中緯度地方、高緯度地方となるにつれて、南中高度がだんだん低くなります。すると、太陽から受ける熱の量が、だんだん少なくなってきます。このために、赤道からはなれるほど（北半球では北へ、南半球では南へ）、だんだん寒くなります。

赤道付近と南極や北極の気温

赤道付近の低緯度地方は、熱帯気候です。気温が高く、雨量が多いのが特徴です。年間の平均気温は、26～28度です。

南極や北極に近い高緯度地方は、寒帯気候で気温が低く、降水量が少ないところです。年間の平均気温は、南極の中心部がマイナス55度、北極がマイナス17度くらいです。

（監修・村山 貢司）

